令和７年度　内部質保証　目標・計画シート　（教育研究推進委員会）

委員会・組織名　　管理運営1　　財務部

中間責任者②（部長・委員長等）氏名　　財務部長　中村　崇

※1該当事項
①新中期計画、②当年度事業計画、③前年度最終報告課題、④独自の課題、⑤自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載してください。

※２評価
Ｓ：優れて達成している　Ａ：やや優れて達成している　Ｂ：概ね達成している
Ｃ：やや達成が不十分　Ｄ：全く達成できていない

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で「端的に」、文末は「だ・である」調、もしくは体言止め）						教育研究推進委員会による点検・評価		
	目標・計画（具体的、かつ実現可能なもの）		該当事項（※1）	中間報告	最終報告		中間報告評価	最終報告	
				途中経過・状況	評価（※2）	部門講評		評価（5段階）	講評
当初 目標・計画 （５つまで）	1	新中期計画：（1）年間成長率2%を確保し事業活動収入1,000億円台に到達（～2027年度）、（2）営業キャッシュフローを年間100億円以上創出（通年）、（3）毎年42億円の特定資金を継続して積み立て手元資金を500億円以上確保（～2026年度）、（4）純資産1,200億円到達（～2026年度）、（5）中期計画実現に向けた年度予算編成・管理と適切な財務ガバナンスの整備（通年）	①	令和7年7月末時点の法人全体の金融資産総額（※）は680.0億円で、中期ICT関連投資約32億円の支払いを行ったにもかかわらず令和7年3月末(692.5億円）と同水準を維持しており、財務基盤は安定している。 ※　金融資産総額＝現金預金+特定資産+長期性預金+有価証券	A	令和7年12月末時点の法人全体の金融資産総額（※）は721.3億円で、物価高によりコストが増加している中でも令和7年3月末(692.5億円）より増加しており、財務基盤は安定している。 ※　金融資産総額＝現金預金+特定資産+長期性預金+有価証券	中間であるがA	A	財務基盤は安定している。
	2	令和7年度事業計画：経理課：（1）①グルーピング活動、②フレ決算を継続的に実施することで、経理業務のさらなる適正化を推進、（2）各部署、経理部門との情報共有及び認識の統一を徹底し、連携することで経理業務における財務ガバナンスを強化、（3）リーダーシップを発揮し、かつメンバーで協働し具体的な課題及び業務改善を実施し、チームとしての仕組化を推進、（4）生産性向上、ワークライフバランスの改善を目指し、主体的、自発的に業務に取組み、スキル・知識の向上を図る 企画課：（1）予測精度の向上と業績評価・財務分析のアップデートを継続し、経営判断及び各病院の収支差額に貢献、（2）他大学の経営状況を研究し、財務的視点から本学の課題を発信、（3）配当と成長を取り込んだ有益な資金運用を検討し実行、（4）新学校法人会計基準に伴う変更点、諸課題を経営層に発信	②	・経理課においては6つのグルーピング活動を開始し、生産性向上とガバナンス強化に向け諸課題の洗い出しを開始した。 ・企画課においては、8月7日に開催された経営戦略会議において私立医科大学30大学の令和6年度決算及び令和7年度予算の一覧表を作成し、令和6年度決算を踏まえた現状の傾向と今後の対策を提示した。	B	・1月27日（火）に実務担当者向けの「経理事務説明会」を開催し、伝票起票の誤りが多い点を中心に説明を行い生産性向上に努めた。100名を超える参加者があった。 ・8月7日（木）に開催された経営戦略会議に加え、1月29日（木）に開催された拡大経営会議においてたたき台となる「他大学との比較分析」を提示し、経営の意思決定に貢献した。	中間　B	A	各部署経理担当者への業務指導など、総合的業務改善に積極的である。
	3	前年度最終報告課題：病院部門を含めた法人全体の経理財務人材の更なるレベルアップに向けた施策の継続的な実施	③	各病院の実務担当者を含めた会計会議二部を毎月第一金曜日に開催し、令和6年度決算における各経理部門の取組み事例を共有し、また各々の課題を解決することで法人全体の経理財務人材の底上げを図っている。	B	・会計会議第二部において、私学法改正に伴う変更点を共有し、実務担当者のレベルアップを図った。 ・人事異動により担当が変更となった病院において、毎月現地フォローを行いクオリティの維持に努めた。	中間　B	A	経理事務担当者の人材育成に効果が見られる。
	4	独自の課題：（1）私学法改正に伴う学校法人会計基準への対応と年度決算の遂行、（2）各病院に対する定期的なモニタリング実施と経営並びに各病院に対する価値ある経営情報の提供、（3）活動の活性化による財務ガバナンスの強化とメンバーのスキルアップによる体制強化、（4）令和7年度以降の施設・設備投資計画を織り込んだ長期資金収支シミュレーションを更新し、財務計画の見直しを継続	④	・月に1度各病院を訪問し病院長・事務部長に対し月次成績の共有と財務的視点からの課題を提示している。 ・長期資金収支シミュレーションについては、今年度中の更新に向けた検討を開始した。	B	・私学法改正に伴う最大の懸念事項であった決算スケジュール変更について、理事会日程を含め財務部でリードし結論を得た。 ・月次成績の共有に加え、補正予算に関する情報を提供し予算達成の道筋を提示した。 ・長期資金収支シミュレーションについて、期中に改定を行い経営報告を行った。しかし、年末から年始にかけた診療報酬のプラス改定報道を受け、次年度に再度見直しを行うこととなった。	中間　B	A	良好である。
期中追加 目標・計画									

令和７年度　内部質保証　目標・計画シート　（教育研究推進委員会）

委員会・組織名	管理運営2　施設部
中間責任者②（部長・委員長等）氏名	施設部長 石川培之

※1該当事項
①新中期計画、②当年度事業計画、③前年度最終報告課題、④独自の課題、⑤自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載してください。

※２評価
Ｓ：優れて達成している　Ａ：やや優れて達成している　Ｂ：概ね達成している
Ｃ：やや達成が不十分　Ｄ：全く達成できていない

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で「端的に」、文末は「だ・である」調、もしくは体言止め）					教育研究推進委員会による点検・評価		
	目標・計画（具体的、かつ実現可能なもの）		該当事項（※1）	中間報告	最終報告		中間報告評価	最終報告	
				途中経過・状況	評価（※2）	部門講評		評価（5段階）	講評
当初目標・計画（５つまで）	1	附属病院別館建設工事を円滑に推進する。（令和9年9月竣工予定）	①	現在、工期の遅れなく順調に工事が進んでいる。	B	現在、工事は予定通り進捗している。	中間　B	A	工事は順調に進んでいる。
	2	総合医療センター西館計画の設計作業を推進し、令和7年度中に工事に着手する。	①	本年9月中に現建物（総合医療センター別館）機能の外部への仮移転を進め、10月から解体工事を開始する予定。	B	10月に旧建物の解体工事に着工済。西館建設工事には、令和8年11月に着工する予定。	中間　B	A	工事計画の具体化は進んでいる。
期中追加目標・計画									

令和７年度　内部質保証　目標・計画シート　（教育研究推進委員会）

委員会・組織名　管理運営3　人事部

人事部長

中間責任者②（部長・委員長等）氏名　川平眞善

※1該当事項
①新中期計画、②当年度事業計画、③前年度最終報告課題、④独自の課題、⑤自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載してください。

※２評価
Ｓ：優れて達成している　Ａ：やや優れて達成している　Ｂ：概ね達成している
Ｃ：やや達成が不十分　Ｄ：全く達成できていない

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で「端的に」、文末は「だ・である」調、もしくは体言止め）						教育研究推進委員会による点検・評価		
	目標・計画（具体的、かつ実現可能なもの）		該当事項（※1）	中間報告 途中経過・状況	最終報告 評価（※2）	最終報告 部門講評	中間報告評価	最終報告 評価（5段階）	最終報告 講評
当初 目標・計画 （５つまで）	1	魅力ある職場環境の整備 ・働き方改革やハラスメント防止対策等の推進による職員のモチベーション向上と組織の活性化。 ・労働関連法改正への対応（育児・介護休業法、障害者法定雇用率の遵守等）。 ・健康管理部との協業による職員のメンタルヘルス対策の強化。	①②④⑤	・魅力ある職場環境の整備へ向け、近隣の私立医科大学の状況調査等により、優秀な人材の確保・離職率の減少への有効な対策について検討を進めている。 ・ハラスメント防止対策については、ハラスメント防止ポスター掲示を更新すると共に、e-learningによる研修等をはじめ正しい認識の周知を行っている。 ・育児・介護休業法改正について、改正法に適応すべく規程の変更を実施した。尚、R7年10月1日からの施行内容について、準備を進めている。 ・障がい者雇用は、法定雇用率遵守に向け業務の切り出しと採用拡大を行った結果、不足数は▲3カウント（R7年6月1日現在）まで改善した。しかしながら、R8年7月には障害者雇用率の引上げ（2.5%⇒2.7%）により大幅な不足数増（約12カウント）が見込まれることから、人材開発部に障がい者雇用推進課を設置し、組織体制を強化したうえで採用強化、業務の切り出し等に努めている。 ・メンタルヘルス対策として、産業医連絡会および健康管理部と共に相談室を各地区（枚方・滝井・香里・くずは）に設置し、ストレスチェック分析等、メンタル不調者の動向を注視し、防止に向けた対策の検討を進めている。	B	・部署別・職種別の実態把握に努めつつ超過勤務の削減とともに適正な人員配置を図ることで、ワークライフバランスの価値観の変化を踏まえた職場環境の整備を進めている。 ・ハラスメント防止対策として本年度もe-learningによる研修等を新任主任以上対象に実施するとともに、新規入職者に対しハラスメント防止ガイドライン冊子の配布、周知ポスターの更新などにより、正しい理解・認識や相談窓口等の周知徹底を行っている。 ・障がい者雇用の推進に向け、人材開発部障がい者雇用推進課として組織体制を整備し、各種採用面接会への積極的に参画し、支援事業所や高等支援学校との連携のもと採用強化を図るとともに、各附属病院の協力により業務・職域を拡充したことにより、必要雇用カウント数（法定雇用率2.5%基準）を達成した。R8年7月の法定雇用率引き上げ（2.7%）を見据え、さらなる強化に取組んでいる。 ・メンタルヘルス対策に関し、産業医連絡会および健康管理部と共に安全衛生スタッフとして復職プロセスの定着化を推進し、休職者への個別フォローを行った。相談室やストレスチェックのデータを活用し、予防対策を講じている。	中間　B	A	良好に進められている。
	2	人材育成と確保 ・一般職について事業推進に見合った人材の確保・育成。 ・人材育成・組織活性化の観点を踏まえた戦略的人事異動の実施。 ・目標チャレンジ制度及び事務職昇進資格試験について、より効果的な制度運用へ向けた改善。	①②④	・新たな事業等を踏まえ、必要な人員確保に向けた採用を進めている。特に看護師については近年、相当数の採用確保が必要であり、2年後の採用も視野に学生に対し本学の認知度を高めるべく、SNSや病院見学会等を通じPR活動を拡大している。 ・各部署の組織力強化の観点から7月1日付けで定期人事異動を実施した。また、事務職昇進資格試験の実施によりモチベーション向上と組織力強化に繋げている。 ・目標チャレンジ制度については、検証・改善委員会及び管理運営委員会の定期開催によって進捗管理を行うとともに、職員アンケート結果を踏まえた課題の分析を行い、制度改善に向け検討を進めている。	B	・一般職の積極的な採用に努め、特に看護職については確保が困難な情勢の中、本学の看護学部生に対する募集活動の強化、対外的広報活動の推進等により250名の採用を達成した。また、超売り手市場の情勢の中で適切な人材確保を図るべく、R7年度補正予算やR8年度診療報酬改定を踏まえた処遇改善の検討を進めていく。 ・R7.7月の定期人事異動について各所属の状況を踏まえた異動・昇進を実施し、事務職昇進資格試験についてはこれまでの問題点を踏まえた改善を加え実施した。さらに、目標チャレンジ制度について、対象者へのアンケート等を踏まえ、検証・改善委員会及び管理運営委員会において、進捗管理とともに課題把握・改善案の検討を行ったところであり、R8年度の大幅な変更へ向け準備を進めている。	中間　B	B	事務職員の適正配置に、さらに努力が必要である。
	3	教員の質向上 ・教員評価制度の適切な推進。 ・教員任期制に関する着実な運用。 ・女性教員の上位職への登用	①②④⑤	・教員評価委員会を開催し、評価項目の見直しを実施。令和６年度表彰に向けてデータ収集を実施している。 ・教員任期制について具体的な評価に向けて検討を進めて行く。 ・本学の女性教員の登用について、他の私立医科大学との比較も含めて過去５年の状況を調査するとともに、総合企画室及びオール女性医師キャリアセンターとの連携によりアンケート結果を基により効果的な手法を検討している。	C	・教員評価委員会を開催し、評価項目の見直しを行い、令和6年度実績に基づく表彰に向けて準備を進めている。 ・教員任期制については、国の通知の周知を図るなど着実な運用を実施している。 ・女性教員の上位職登用について、人材育成確保検討作業部会で議論を深め講座主任へのアンケート結果等を踏まえ、より効果的な手法の検討を進めている。	中間　B	B	医学部に上級女性教員の登用が十分ではない。
	4	医師の働き方改革（タスクシフトと労働管理） ・医師の労働時間の把握と適切な管理。 ・医療技術職へのタスクシフト（特定行為看護師の増加等）の推進。	①②④	・実施2年目となる医師の働き方改革は、医師の働き方改革検討推進委員会を定期的に開催し、昨年同様部署別・職種別の超過勤務推移を把握するとともに、昨年度との比較を行い、傾向分析・対策の検討を実施している。 ・特定行為看護師の養成を看護キャリアセンターと連携して進めており、資格取得者は180名（2025年4月1日現在）に拡大している。また、看護師の業務負担増に鑑み、看護師の増員、看護助手へのタスクシフト、および処遇改善による要員確保を推進している。	B	・医師の働き方改革検討推進委員会等において毎月の勤務実績を収集・分析し、必要に応じて個別の面接指導を実施するなど医師に係る労務管理を適切に推進している。 ・特定行為看護師の養成を看護キャリアセンターと連携して推進した。特定行為研修修了者は217名（修了予定者含む）に拡大した。一方で看護師の業務負担増に鑑み、看護助手へのタスクシフト、障がい者雇用推進室への業務シフト等、各種取り組みを実施した。	中間　B	A	働き方改革の体制作りには努力が見られる。
	5	人事関連業務のＤＸ推進 ・ＤＸ推進室との協業によるインフラ整備。 ・人事に係る各種申請処理や給与に係る社会保険手続等について、さらなる効率化の検討・実施。 ・戦略的人事の展開を見据えたDX推進の検討・実施	①②④	・ＤＸ推進室のリーダーシップのもとに進められている本学全体の共有ICT認証基盤の整備状況を踏まえ、人事給与業務においてどういった活用が効果的かについて検討している。 ・昨年度から人事部独自のＤＸとして入職手続きのシステムを導入し、成果を上げている。今後、労働契約手続きや、各病院への展開を計画している。 ・目標チャレンジ制度に係るシステムの変更を検討していることから、これに併せ戦略的人事に資するより効果的なシステムの導入を検討している。	A	・本学全体の基盤事務におけるﾏｲｸﾛｿﾌﾄ365の活用方針を踏まえ、当部におけるDX推進の検討・活用を進めた。 ・入職手続きの事務に係る新たなICTシステムを導入し、業務の効率化のみならず内定者へのサービス向上につながりアピール効果が生まれている。 ・戦略的人事を目指す一環として、目標チャレンジ制度においても新たなICTシステムを導入し改善を進めるとともに、今後さらなる活用・展開を図る。	中間　C	B	ICTシステムの導入による成果は明年度の課題である。
期中追加 目標・計画									

令和７年度　内部質保証　目標・計画シート　（教育研究推進委員会）

委員会・組織名	管理運営4　総務部
中間責任者②（部長・委員長等）氏名	総務部長 宮口智明

※1該当事項
①新中期計画、②当年度事業計画、③前年度最終報告課題、④独自の課題、⑤自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載してください。

※２評価
Ｓ：優れて達成している　Ａ：やや優れて達成している　Ｂ：概ね達成している
Ｃ：やや達成が不十分　Ｄ：全く達成できていない

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で「端的に」、文末は「だ・である」調、もしくは体言止め）					教育研究推進委員会による点検・評価		
	目標・計画（具体的、かつ実現可能なもの）	該当事項（※1）	中間報告	最終報告		中間報告評価	最終報告	
			途中経過・状況	評価（※2）+L10:M16	部門講評		評価（5段階）	講評
当初 目標・計画 （５つまで）	1 業務改善コンテストについて、引き続きコンテストへの積極的な参画を促す。あわせて総務部での独自取組みである電子契約システムの本格導入を進める。	①②	業務改善コンテストについては、6月に令和6年度発表会を実施。令和7年度については、10月の応募開始に向け準備を進めている。また電子契約システムの導入に向けては、根拠規程を検討中。	B	業務改善コンテストについては、今年度エントリー部門が昨年度より1チーム少ない８チームにとどまった。電子契約については、根拠規程を策定した。	中間　B	A	業務改善コンテストの所期の目標は達成されたといえる。
	2 創立100周年に向け、式典や歴史資料室改修に向けた準備を進めていく。	①②	創立100周年記念事業実行委員会が始動したところ。総務部では、式典や歴史資料室改修に向けた議論を開始している。	B	1回目の式典・講演・祝宴委員会を開催し、企画内容やスケジュールについての検討を開始。イベント事業者との面談等により具体化に向けての準備を進めている。また、歴史資料整備委員会を2回開催し、整備拡張のおおまかな方向性および今後の整備スケジュール（令和8年度に基本構想・設計を行う）を確認した。	中間　C	B	着実に実行されてきている。
	3 各部署で個人情報が適切に取り扱われるよう意識の醸成を図っていく。	②	個人情報保護委員会に「附属医療機関個人情報漏えい防止策検討部会」を設置し、個人情報の漏えい防止の取組みを進めている。	B	令和7年度は部会を2回開催し、漏えい案件の傾向分析と附属各医療機関の意識喚起を図った。また漏えい案件発生ごとに、再発防止策の徹底を図った。事務部長会議でも継続的に注意喚起を実施し、昨年度に比べ発生ペースは改善している。	中間　B	A	漏洩事案は徐々に減少してきている。
	4 各部署のBCP整備を進め、法人全体の危機管理体制の点検・強化を図る。	①② ③	8月に担当者会議を開催し、各部署のBCP整備状況を点検するとともに、取組促進を指示した。	C	12月に危機管理委員会を開催し、各部署の取組を検証した。ただし予算やハード面の制約から進捗が進んでいない項目もある。	中間　B	B	全部署の達成状況が不明である。
	5 大学の社会連携・社会貢献の基本方針の策定などその推進の枠組みづくりを進める。	①⑤	関西医科大学社会連携・社会貢献推進規程を7月に制定し、現在推進委員会の開催を準備中。	A	根拠規程制定の後、推進委員会を2回開催し各部門の取組みの棚卸を行うなど、社会貢献の取組み推進の枠組みを整えた。また、広報戦略室との連携により本学ホームページに社会貢献の新たなサイトを設置し、本年度制定した「基本方針」や過去の取組み実績を掲載した。	中間　B	A	良好に進められている。
期中追加 目標・計画								

令和７年度　内部質保証　目標・計画シート　（教育研究推進委員会）

委員会・組織名	管理運営5　広報戦略室
中間責任者②（部長・委員長等）氏名	広報戦略室部長 矢島祥行

※1該当事項
①新中期計画、②当年度事業計画、③前年度最終報告課題、④独自の課題、⑤自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載してください。

※２評価
Ｓ：優れて達成している　Ａ：やや優れて達成している　Ｂ：概ね達成している
Ｃ：やや達成が不十分　Ｄ：全く達成できていない

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で「端的に」、文末は「だ・である」調、もしくは体言止め）						教育研究推進委員会による点検・評価		
	目標・計画（具体的、かつ実現可能なもの）		該当事項（※1）	中間報告	最終報告		中間報告評価	最終報告	
				途中経過・状況	評価（※2）	部門講評		評価（5段階）	講評
当初目標・計画（５つまで）	1	100周年へ向け、大学Webサイトのサーバー環境を附属医療機関と共通する外部サーバーへ移管し、SEO対策やセキュリティを向上させながらフルリニューアルへの準備を整える。	①②③	キックオフ MTG済み 月に一回の定例会を8月より開始	B	費用対効果を熟慮し、フルリニューアルから一部リニューアルへと計画を修正対応中	中間　B	B	徐々に進められている。
	2	研究成果を広報するための国内プレスリリースに加え、国際レピュテーション・マネージメントのために海外プレスリリースを実施する。	①②③④	海外リリースに相応しい研究成果発表を選定し精査中	B	海外リリースに相応しい研究成果発表の選定中	中間　B	C	成果は今のところ見えていない。
	3	常に新たな広報戦略を検討し策定を行うと共に、オウンドメディアの最適化や報道機関などからの取材を統括し、適切に対処する。	①②④	メディアへの教員出演促進用のWebサイト導線整備済み	A	メディアへの教員出演促進用のWebサイト導線整備済み　プレスリリースによる記事化率も維持	中間　B	A	良好に進められている。
	4	学校法人全体においての事故・事件・不祥事などに対するメディア対応の危機管理広報マニュアルを整備し各部署と共有する。	①②	災害などの外的要因危機に関する場合と不祥事などの内的要因に関するメディア対応に切り分け、フローの単純化に向けてマニュアル整備中。	B	広報戦略室内の危機管理広報についてのマニュアルと全学的な対応周知マニュアルとを切り分け整理中	中間　C	C	途上である。
	5	広報・広告の実施にあたり、室内全員のチームワークで事務的な処理についてもケアレスミスを撲滅し、信頼される情報管理を徹底。ステークホルダーへ向け正確な広報を展開する。	③④	広報室員の増員を計画。チーム制を維持しダブルチェックの徹底と案件ごとにマニュアルを90%以上作成。	B	室員の増員は未達。チーム制の維持によるチェック機能は十分に機能	中間　B	B	努力の成果はみられる。
期中追加目標・計画									

令和７年度　内部質保証　目標・計画シート　（教育研究推進委員会）

委員会・組織名	管理運営6　健康管理部
中間責任者②（部長・委員長等）氏名	健康管理部部長補佐 榎本良枝

※1該当事項
①新中期計画、②当年度事業計画、③前年度最終報告課題、④独自の課題、⑤自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載してください。

※２評価
Ｓ：優れて達成している　Ａ：やや優れて達成している　Ｂ：概ね達成している
Ｃ：やや達成が不十分　Ｄ：全く達成できていない

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で「端的に」、文末は「だ・である」調、もしくは体言止め）					教育研究推進委員会による点検・評価		
	目標・計画（具体的、かつ実現可能なもの）	該当事項（※1）	中間報告	最終報告		中間報告評価	最終報告	
			途中経過・状況	評価（※2）	部門講評		評価（5段階）	講評
当初 目標・計画	1　ストレスチェック結果の活用 ①受検者へストレスチェック受検意義の周知を行い実施し、結果を１次予防（セルフケア）に繋げる。 ②高ストレス対象者へ産業医面接の勧奨を行い、２次予防に繋げる。	②③ ④	①検査期間は8/25～9/12。事前の受検案内を7/1、8/18に行う。セルフケア動画を受検時に案内した。 ②今年度から、産業医の了承の下、高ストレス者全員に産業医面接の案内を行う。	A	①検査期間を3週間に延長したため、受検者数が404→433名と昨年度より増加した。セルフケア動画を受検時及び結果配布時ともに案内し、セルフケアに対する意識を持ってもらえた。②産業医と相談の下、高ストレス者のうち2割の方に産業医面談の案内を行った。	中間　B	A	順調に進められている。
	2　メンタルヘルス不調者の低減に繋がる取り組みとメンタルヘルス不調者へのサポート体制の充実を図る。 ①メンタルヘルス相談室活用の周知。 ②メンタルヘルス不調者への対応ガイドラインを試行し、見直しを行う。 ③長時間労働発生時は産業医面接を勧め、面接により心身の不調を早期に発見する。また、産業医から業務上の措置がある場合は、実施状況を確認する。	①② ③④	①相談室のフライヤーをイントラの学内情報にQRコード付きで掲示した。 ②産業医連絡会で、意向を確認し内容を一部修正。イントラの新着情報に更新した。 ③本学の基準にて適正に面接案内を行っている。	A	①相談室のフライヤーをイントラの学内情報にQRコード付きで掲示し、枚方及び巡回相談室ともに周知と利用拡大に繋げた。 ②産業医連絡会にてガイラインの内容を検討し、ガイドラインを一部修正し、イントラの新着情報を更新した。 ③本学の基準にて適正に面接案内を行った。（昨年度より対象者は減少傾向にある）	中間　B	A	良好に進んでいる。
	3　健康診断受診率100%と要精密・要医療者への受診勧奨の促進。生活習慣病予防に向けた、生活習慣病健診と人間ドック受診の促進。 ①健康診断未受診者へ連絡を行い、健診結果の確認を漏れなく行う。 ②健診結果D判定者へは、医療機関受診を勧奨し、医療に繋げる。 ③生活習慣病健診または人間ドックの受診者数向上に向けた取り組みを行い、前年よりも受診者数を増加させ、職員の健康増進を図る。	②④	定期健康診断、生活習慣病健康診断は11月以降。全員受診への取組みをする。 人間ドックの提出者の中でD判定者には、2次健診の受診案内は適切に対応できている。	S	現時点で、定期健康診断及び人間ドックの受診者は、全員達成の見通しである。 精密・再検査の対象となるD判定者への2次健診受診の周知と受診後の結果報告は適正に対応できている。	中間　B	S	特に、人間ドッグの達成は顕著である。
	4　労働安全衛生法の新たな化学物質規制及び本学の病原体等安全管理規程に沿って、業務従事者に特殊健康診断の受診勧奨や血清採取等の対応にて、労働者の健康管理を行う。	④	取扱う部門ごとに案内。全員適正に受診できている。	S	職場巡視にて、化学物質管理が適切に行われているか確認を行った。また、指摘事項については、再巡視で改善しているかを確認し、すべての部門で改善され適正と評価した。また、結果は安全衛生委員会で検討し、法律を遵守できている。 病原体（BLS3）を取り扱う方への血清採取し、特殊健診の対象者は全員受診できた。	中間　B	A	良好である。
	5　感染拡大防止。 ①集団ワクチン接種の促進。 ②感染者への休業期間の徹底と、濃厚接触者への対応・指導。	④	①インフルエンザワクチン接種は10月末から学生・教職員別で計画している。　②コロナ感染者については、学内基準により適正に対応できている。	S	インフルエンザワクチン接種率：職員は横ばい、学生は増加した。インフルエンザは学生は一時的に増加したが、適正に管理指導できた。 コロナ感染者について、学内基準により適正に対応できている。また、罹患者数は昨年より減少している。	中間　B	S	適正かつ迅速に対応できている。
期中追加 目標・計画								